

20th
Anniversary

植村花菜

スペシャル・コンサート

～家族の絆～

Family Ties

ヒット曲『トイレの神様』で
一大ブームを巻き起こした植村花菜が贈る、
笑って泣いて、心温まるコンサート。

〈予定曲目〉

トイレの神様
世界一ごはん
新しい世界
テネシー・ワルツ
糸 …他

公演日程：2025年

9/30(火) 6:30 p.m. 三原市芸術文化センター ポポロ

10/1(水) 6:30 p.m. ふくやまリーデンローズ

10/2(木) 6:30 p.m. 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 大劇場

その他の日程

10/4(土) 下関市民会館

10/5(日) 周南市文化会館

入場料金：A席¥6,500 B席¥5,500(民音会員料金：A席5,000 B席4,300)〈税込〉

■チケットのお求めは

ローソンチケット <https://l-tike.com/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

【三原公演】

【福山公演】

【岡山公演】

三原市芸術文化センター ポポロ

フクハレコード

リーデンローズチケットセンター

岡山芸術創造劇場 ハレノワ

岡山シンフォニーホールチケットセンター

ぎんざや

[Lコード:62314]

[Pコード:297-392]

☎0848(81)0886

☎0848(64)6464

☎084(928)1810

☎086(201)2200

☎086(234)2010

☎086(222)3244

当日学生席 2,000円

小学生から大学生まで。
高校生以上は要学生証提示。

※未就学児童は入場できませんのでご了承ください。

■お問い合わせ

MIN-ON広島 ☎082(567)0585 【三原公演】

MIN-ON福山 ☎084(954)6551 【福山公演】

MIN-ON岡山 ☎086(262)3480 【岡山公演】



民音ホームページ

主催：MIN-ON 制作協力：(有)ライブコミュニケーションズ



20th Anniversary

植村花菜

スペシャル・コンサート

～家族の絆～

Family Ties

今年もこのFamily Tiesツアーを開催
する機会に恵まれたこと、大変有り難く
思っています。
去年は生後3カ月の娘を連れての
ツアーとなりました。
そして、このツアーが始まった頃に赤ちゃん
だった長男は今年10歳になりました。
Family Tiesツアーと笑に子供たちの
成長を感じ、とても感慨既深いです。
今年はデビュー20周年。
ここまでずっと音楽を続けて来られたこと、
ツアーに来て下さるお客様、支えて下さる
スタッフの皆様になにから感謝の気持ち
でいっぱいです！
皆さまにお目にかかれますことを
今から楽しみにしています。

花菜



Profile

植村花菜 (うえむら・かな)

兵庫県川西市出身。1月4日生まれ。A型。

8歳の時、映画『サウンド・オブ・ミュージック』を見て、その世界観に感銘を受け、歌手になることを決意。2002年1月、独学でアコースティック・ギターを学び、作詞・作曲も始める。同年10月、「服部良一記念大阪音楽祭 ザ・ストリートミュージシャン・グランプリ'02」に出場し、1200組の中から見事グランプリを獲得。2005年5月11日、1stシングル『大切な人』でメジャーデビューを果たす。

2010年3月にリリースしたミニ・アルバム『わたしのかけらたち』に収録の『トイレの神様』が各方面で驚異的な反響を呼び、オリコン・有線・着うた(R)ランキングなどの各チャートで、上位を長期的ににぎわすロングヒットを記録。その後、同曲は映画・小説化されるなど大きな社会現象を巻き起こし、年末の「日本レコード大賞」では優秀作品賞・作詩賞のダブル受賞を果たした。また植村自身も「NHK紅白歌合戦」に初出場するなど、『トイレの神様』は2010年を代表する1曲として、多くの人に愛される曲となった。

2013年1月、ジャズドラマー清水勇博氏と結婚。2015年1月、第1子(男子)を出産。同年9月にはデビュー10周年を記念し、自身初となるベストアルバム『The Best Songs』をリリース。2016年末、拠点をNYへ移し、2018年8月、FCI放送局ニュース番組「FCI News Catch!」のテーマ曲『Happiness』をリリース。2021年、デビュー15周年を記念してアルバム『それでいい』をリリース。現在はNYでのソロコンサートの他、カーネギーホールやケネディーセンターほか、NY以外のアメリカ国内でも演奏多数。母親となった彼女は、さらに新境地を拓きながら、音楽の道をひたすら歩み続けてゆく。

公式サイト <https://ka-na.us/>



栗田妙子
(ピアノ)

©maiko miyagawa



工藤精
(ベース)



清水勇博
(ドラム)